

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1)担当支部:	広島支部	(2)記載者氏名:	佐々木 弘磨	会員番号:	12693	事務局整理記入欄	広島 - 108
分水嶺区分	W567 722.5m峰	(3)山行日:	2006年	3月	25日	(4)天候	晴

(5)参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

前垣寿男	12680	兼森路子	12671						
松島宏	13293	池本喜浩	11953						
兼森志郎	11958								
佐々木弘磨	12693								
計			6名				計		名

(6)山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	亀原川林道車止め点~分水嶺稜線~W567 722.5m峰~県境稜線鞍部(この地点より着た道を引き返す)												
アプローチ:	広島~六日市I/C~亀原林道車止め点 亀原林道車止め点~高尻川キャンプ場(幕营地)												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	亀原川林道車止め点	周防広瀬	131	55	50.91	34	20	8.48	390	9:40		A-2	(8),(9),(10)
分水嶺到達点	分水嶺稜線	周防広瀬	131	55	26.00	34	19	57.04	530	11:00		B-3	(8),(9),(10)
		668.0m峰(大屈曲点)	周防広瀬	131	55	18.37	34	20	5.38	658	12:00		B-2
W567	722.5m峰	周防広瀬	131	55	2.36	34	19	53.54	709	12:55		B-2	(8),(9),(10)
		県境稜線鞍部 (この地点より着た道を引き返す)	周防広瀬	131	54	51.01	34	19	30.03	694	13:35		B-2
W567	722.5m峰	周防広瀬	131	55	2.36	34	19	53.54	709	14:35	14:55	B-2	(8),(9),(10)
分水嶺離別点	分水嶺稜線	周防広瀬	131	55	26.00	34	19	57.04	530	15:45		B-3	(8),(9),(10)
歩行終了点	亀原川林道車止め点	周防広瀬	131	55	50.91	34	20	8.48	390	16:50		B-2	(8),(9),(10)
											総歩行時間(休憩時間を除く):	6時間50分	
											総所要時間		

(7)三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
W567	722.5m峰	4	真南	良好	角柱の角が一部欠損

(8)人工施設の現況および地形図との相違点

六日市温泉ゆらら、入浴料500円、 高尻川リハ-サイトハウス村;宿泊棟 大人1人/2500円、キャンプ1区画/3000円

(9)水および植生に関連した特記事項

分水嶺は北側の高津川水系支流の河内川、亀原川と、南側の錦川水系支流の尾茂川に挟まれている。 分水嶺稜線は島根・山口県側ともに雑木林で占められ、松の大木も散見される。山口県側には杉、檜の植林帯も散在する。 又、16号線沿いにはコウヤマキ自生林、沢田の大杉、六日市のしだれ桜、立戸の大銀杏、山祇神社の椿の群生が見られる。

(10)その他の特記事項

島根・山口両県の県境でもある分水嶺は、W566掘田ヶ岳から北西に延びる。更に地形図668m峰にて大きく南西に方向(大屈曲点)を変え、W567 722.5m峰に至る。このルートは2005年10月23日に南側の尾茂川から急斜の支尾根に取り付き分水嶺稜線に達したが(山行報告書 広島 - 101)、厳しい藪で部分踏査に終わる。この経験を踏まえ、今回は北側の亀原川を詰め、分水嶺稜線に取り付き事にした。亀原川沿いに林道を登るも、杉の倒木が始まり苦しむ。大藪の源流を詰めて、やつとの思いで分水嶺稜線の鞍部に出た。その後の稜線も藪漕ぎ、668m峰の大屈曲点を経て待望のW567 722.5m峰に着く。この付近は平らだが稜線の両側共に急峻で、西に位置する河内川沿いの最終民家が直下に遠望された。この場所に分水嶺踏査の最後となった、W567指示板を取り付ける。更に踏査を南西に伸ばした後、来た道を慎重に下降、事故無く車止め点に辿り着いた。それにしても何時もの事とは言いながら、約7時間にも及ぶ踏査には本音でくたびれる。「藪との体力勝負、分水嶺」最終踏査の明日も厳しく抵抗するのだろうか?

(11)写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明: W567:722.5m峰 W567A:最終指示板の取り付け